

## リサーチレター <2021 No.2>

### 高齢者の運転免許の返納者<sup>1</sup>の実態と意識について ～アンケート調査結果より(2021年版)～

#### 【要旨】

- 運転免許の返納者の23.2%が「大変良かった」、52.1%が「良かった」と回答した。合計すると75%を超える回答者が免許返納したことをポジティブに評価していた。
- 運転免許を返納した理由は、「運転をしていなかった（ペーパードライバー）（27.7%）」、「運転をする必要がなくなった（23.7%）」、「高齢者による重大事故のニュースを耳にした（20.3%）」が上位の回答となった。2019年の調査との比較では「高齢者による重大事故のニュースを耳にした」が16.1%から20.3%に増加した。
- 運転免許を返納するメリットは、「事故を起こす心配がなくなった（58.1%）」、「車の維持費などの移動にかかる費用が安くなった（41.4%）」、「運動量が増えて健康になった（21.5%）」、「家族に安心された（21.4%）」が上位の回答となった。また、年齢が高いほど免許返納のメリットを感じている傾向が確認された。
- 運転免許を返納するデメリットは、「買い物の不便（18.1%）」などが挙げられた。免許返納後の「外出の頻度」は、回答者全体のうち2割以上で減少し、増加は5%以下であった。特に、最寄り駅やバス停までの徒歩による移動時間が「10分以上」かかる場合、回答者の3割以上で外出頻度が減少し、増加は3%程度に留まった。

#### 1. 調査の目的・背景

運転免許返納制度<sup>2</sup>は、高齢運転者による事故防止策として、1998年の道路交通法改正により開始された。警察庁は、2017年に運転免許返納の促進に関する通達を全国の警察機関に出している。

警察庁の統計資料によると、運転免許の返納件数は、2009年の51,086件から2019年の601,022件まで増加したものの、2020年は減少した（552,381件、75歳以上はこのうち52.4%）<sup>3</sup>。

運転免許の返納件数全体が伸び悩んでいることから、認知機能の衰え等が原因となり事故を起こしやすいとされる75歳以上の運転免許保有者数は増加を続けている。その人数は、2020年末時点で約590万人である。運転免許返納制度が高齢運転者による事故件数の減少に寄与するためには、返納件数を再び増加させる施策が必要と考える。

このような背景から、返納件数の増加に貢献することを目指し、MS&ADインターリスク総研株式会社は、2021年7月に運転免許を返納した1,000人を対象として、実態と意識に関するアンケート調査を実施した。なお、本調査は2019年8月に同様の目的で実施した調査の追跡調査である。

本稿では、今般実施した調査の結果につき概要を報告する。また、2019年8月実施の調査結果との比較を交え、運転免許返納者の意識の変化等を考察する。

<sup>1</sup> 運転免許を自主的に返納した（以下、自主返納）、またはあえて更新せず、結果として返納した（以下、非更新）方々を対象として調査を行った。なお、本稿では、「自主返納」と「非更新」の双方を合わせ、「返納」と呼ぶこととする。

<sup>2</sup> 法令上は、運転免許保持者が自主的に運転免許を返納することを「申請による運転免許の取り消し」と呼ぶ。

<sup>3</sup> 新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛が影響したためとされている。

## 2. 調査の概要について

### (1) 調査実施期間

2021年7月7日～9日に実施した事前調査において、運転免許を自主的に返納した（以下、自主返納）、または、あえて更新せずに結果として返納した（以下、非更新）、各年代の男女計1,000人を抽出し、2021年7月15日～18日の間にインターネットによる調査を行った。なお、本調査では、「自主返納」と「非更新」の双方を合わせ、「返納」と呼ぶこととする。本調査では、あえて運転免許を更新しないことで運転の継続を自主的にやめたという行為も返納のあり方の一つとして捉えている。

### (2) 回答者属性

対象者1,000人（男性597人、女性403人）の主な属性は以下のとおりである。

#### ① 年齢(人)

年代	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上
人数	13	132	386	281	188

（最若年60歳、最高齢91歳、平均74.7歳）

#### ② 職業

無職(61.5%)、専業主婦・主夫(24.1%)、パート・アルバイト(6.8%)、自営業・自由業(4.0%)、会社員(2.0%)等

#### ③ 運転免許を返納した(自主返納)、またはあえて更新しなかった(非更新)人数

単位:人、%

計	自主返納	非更新
1,000人	720人	280人
100.0%	72.0%	28.0%

## ④居住地域別回答者数

単位：人

都道府県	回答者数
全体	1,000
北海道	1
青森県	4
岩手県	12
宮城県	4
秋田県	0
山形県	3
福島県	7
茨城県	6
栃木県	6
群馬県	68
埼玉県	83
千葉県	228
東京都	165
神奈川県	2
新潟県	1
富山県	4
石川県	1
福井県	5
山梨県	7
長野県	6
岐阜県	10
静岡県	39
愛知県	1

都道府県	回答者数
三重県	7
滋賀県	5
京都府	37
大阪府	118
兵庫県	70
奈良県	10
和歌山県	3
鳥取県	0
島根県	2
岡山県	9
広島県	7
山口県	4
徳島県	1
香川県	1
愛媛県	3
高知県	0
福岡県	19
佐賀県	0
長崎県	2
熊本県	2
大分県	3
宮崎県	2
鹿児島県	2
沖縄県	2

## ⑤居住地域および「自宅から最寄りの駅・バス停までの徒歩での時間」別回答者数

単位：人

都道府県	最寄りの交通機関までの 徒歩での時間			
	5分未 満	5～10 分未満	10～15 分未満	15分 以上
全体	385	371	149	95
北海道	8	14	6	1
青森県	0	1	0	0
岩手県	1	3	0	0
宮城県	7	3	2	0
秋田県	3	0	0	1
山形県	0	0	0	0
福島県	0	1	1	1
茨城県	2	5	0	0
栃木県	2	2	0	2
群馬県	2	1	2	1
埼玉県	25	21	13	9
千葉県	23	27	17	16
東京都	107	82	26	13
神奈川県	61	65	28	11
新潟県	2	0	0	0
富山県	0	0	1	0
石川県	0	1	1	2
福井県	0	1	0	0
山梨県	2	3	0	0
長野県	3	2	1	1
岐阜県	2	2	1	1
静岡県	6	2	1	1
愛知県	18	15	4	2

都道府県	最寄りの交通機関までの 徒歩での時間			
	5分未 満	5～10 分未満	10～15 分未満	15分以 上
三重県	4	1	0	2
滋賀県	1	2	0	2
京都府	18	10	6	3
大阪府	30	58	25	5
兵庫県	32	26	7	5
奈良県	4	5	0	1
和歌山県	0	2	0	1
鳥取県	0	0	0	0
島根県	1	0	1	0
岡山県	2	3	1	3
広島県	3	1	2	1
山口県	2	0	1	1
徳島県	0	0	0	1
香川県	0	0	0	1
愛媛県	0	1	0	2
高知県	0	0	0	0
福岡県	12	5	1	1
佐賀県	0	0	0	0
長崎県	1	0	0	1
熊本県	0	1	1	0
大分県	0	2	0	1
宮崎県	1	1	0	0
鹿児島県	0	1	0	1
沖縄県	0	1	0	1

### 3. 調査結果

#### (1) 運転免許を保有しなくなる以前に、あなたご自身が運転されていた時の主な目的をお知らせください (複数回答)

回答者全体の半数以上（51.3%）が「買い物」と回答している。「買い物」は「60~64歳」では15.4%なのに対し、「75~79歳」で59.4%、「80歳以上」で58.5%と高くなる。また、回答者全体の39.5%が「旅行・ドライブ」と回答している。「旅行・ドライブ」は「60~64歳」では30.8%なのに対し、「75~79歳」で51.2%、「80歳以上」で47.3%となっている（表1）。

【表1】運転免許返納者が運転をしていた時の主な目的

単位：%

	全体	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	75-79 歳	80歳 以上
通勤・通学	13.1	7.7	15.2	12.2	16.0	9.6
仕事・業務	14.6	0.0	9.8	12.4	18.9	17.0
買い物	51.3	15.4	40.9	46.6	59.4	58.5
食事(外食)	22.1	0.0	18.9	17.4	25.3	30.9
通院	16.7	0.0	14.4	12.7	16.4	28.2
趣味・サークル	14.9	7.7	4.5	14.5	16.0	21.8
家族・友人宅への訪問	26.5	7.7	16.7	22.5	33.1	33.0
旅行・ドライブ	39.5	30.8	21.2	33.7	51.2	47.3
送迎	23.0	0.0	21.2	20.5	26.0	26.6
その他	0.5	0.0	0.0	0.5	1.1	0.0
運転していない(ペーパードライバー)	28.9	53.8	50.0	34.5	17.8	17.6

#### (2) あなたが運転免許を保有しなくなった理由として最もあてはまるもの<sup>4</sup>をお知らせください

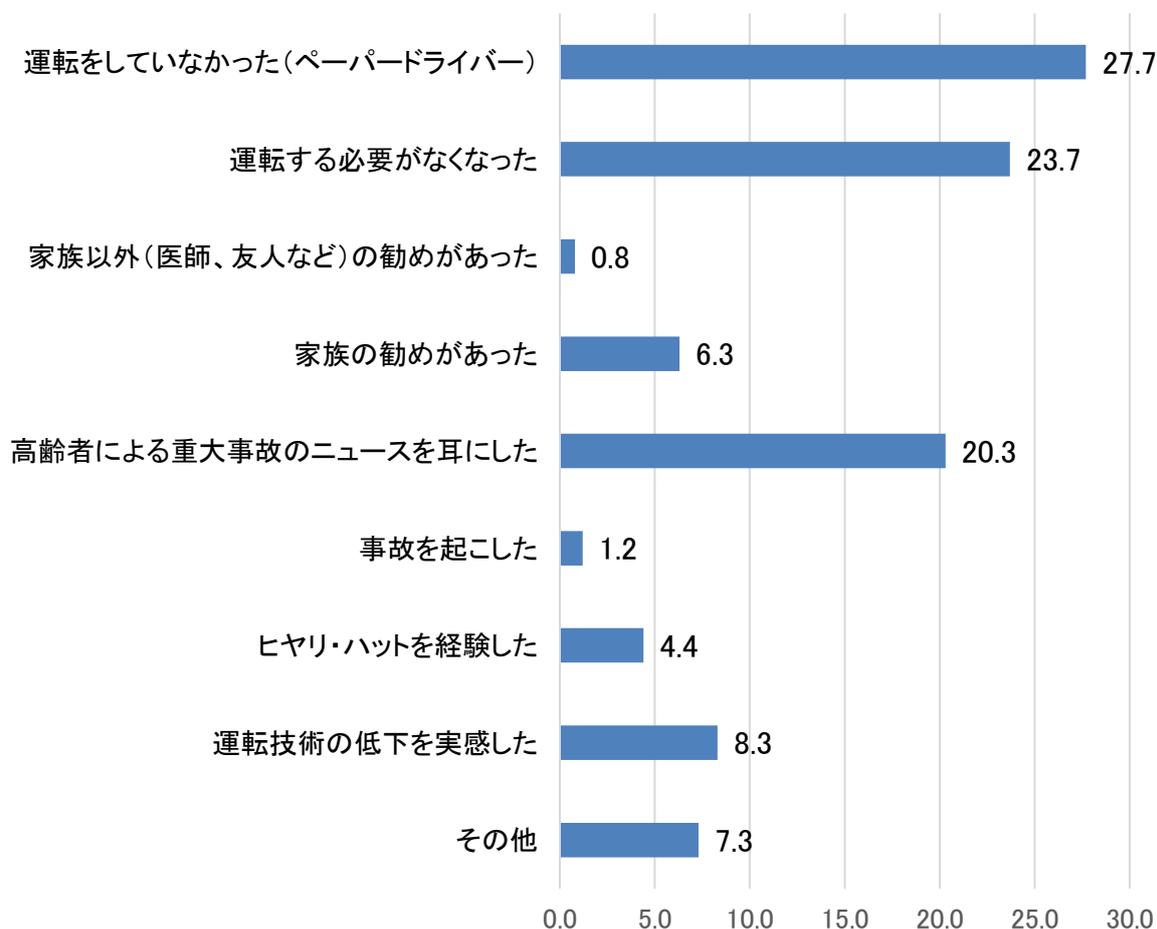
回答者全体では「運転をしていなかった(ペーパードライバー)」が27.7%、「運転をする必要がなくなった」が23.7%、「高齢者による重大事故のニュースを耳にした」が20.3%と高い値になっている。(図1)

年代別にみると、「運転技術の低下を実感した」および「家族の勧めがあった」の回答については年代が上がるにつれ増加している。また、「高齢者による重大事故のニュースを耳にした」は「80歳以上」が34.0%と最も高い(表2)。

<sup>4</sup> ここでいう「ヒヤリ・ハット」とは、結果として事故にはならなかったが、事故につながる一歩手前で回避できた(ヒヤリとしたり、ハッと息を飲んだりする)状況のことを指す。

【図 1】運転免許を保有しなくなった理由

単位：%



【表 2】運転免許を保有しなくなった理由(年代別)

単位：%

	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	75-79 歳	80歳以上
運転技術の低下を実感した	0.0	5.3	6.5	10.0	12.2
ヒヤリ・ハットを経験した	15.4	3.0	2.8	5.7	5.9
事故を起こした	0.0	0.8	1.0	1.4	1.6
高齢者による重大事故のニュースを耳にした	15.4	7.6	15.0	24.6	34.0
家族の勧めがあった	0.0	1.5	2.8	10.0	11.7
家族以外(医師、友人など)の勧めがあった	0.0	1.5	0.5	1.4	0.0
運転する必要がなくなった	7.7	25.0	29.8	19.9	17.0
運転をしていなかった(ペーパードライバー)	53.8	43.2	34.7	20.3	11.7
その他	7.7	12.1	6.7	6.8	5.9
計	100	100	100	100	100

**(3) 運転免許を保有しなくなってから最も増えた移動手段をお知らせください**

回答者全体では、主に「自転車」、「徒歩」および「路線バス」の利用が増えるという結果であった。年代別でみると、「徒歩」は年代が上がるにつれて回答が減少している（表3）。

【表3】運転免許を保有しなくなって最も増えた移動手段（年代別）

単位：%

	全体	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	75-79 歳	80 歳以上
徒歩	26.4	46.2	29.5	28.2	24.6	21.8
自転車	28.1	30.8	27.3	27.5	31.7	24.5
シニアカー（電動車いす）	0.5	0.0	0.8	0.5	0.7	0.0
家族・知人の自家用車	9.6	0.0	12.1	9.6	9.3	9.0
一般のタクシー	2.1	0.0	1.5	2.3	2.1	2.1
乗合タクシー	0.3	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5
コミュニティバス	1.0	0.0	2.3	1.3	0.0	1.1
路線バス	16.7	7.7	7.6	14.8	17.1	27.1
鉄道	13.8	15.4	16.7	13.7	13.9	11.7
その他	1.5	0.0	2.3	1.6	0.7	2.1
計	100	100	100	100	100	100

**(4) 運転免許を保有しなくなってから外出の頻度に変化はありましたか**

運転免許の返納が外出の頻度に影響するかどうかについて、回答者全体では 25.6%が「減った」、4.5%が「増えた」としている。年代別にみると、年代が上がるにつれ外出の頻度が減少する傾向が見られた。特に、「80歳以上」の回答者の 41.5%が外出の頻度が「減った」としている（表 4）。

「最寄りの駅・バス停までの徒歩の時間」別にみると、「5分未満」の回答者の 22.1%が「減った」としたのに対し、「10～15分未満」の回答者は 36.2%、「15分以上」の回答者は 32.6%が「減った」としており、最寄りの駅・バス停までの徒歩の時間によって値の開きが見られた（図 2）。

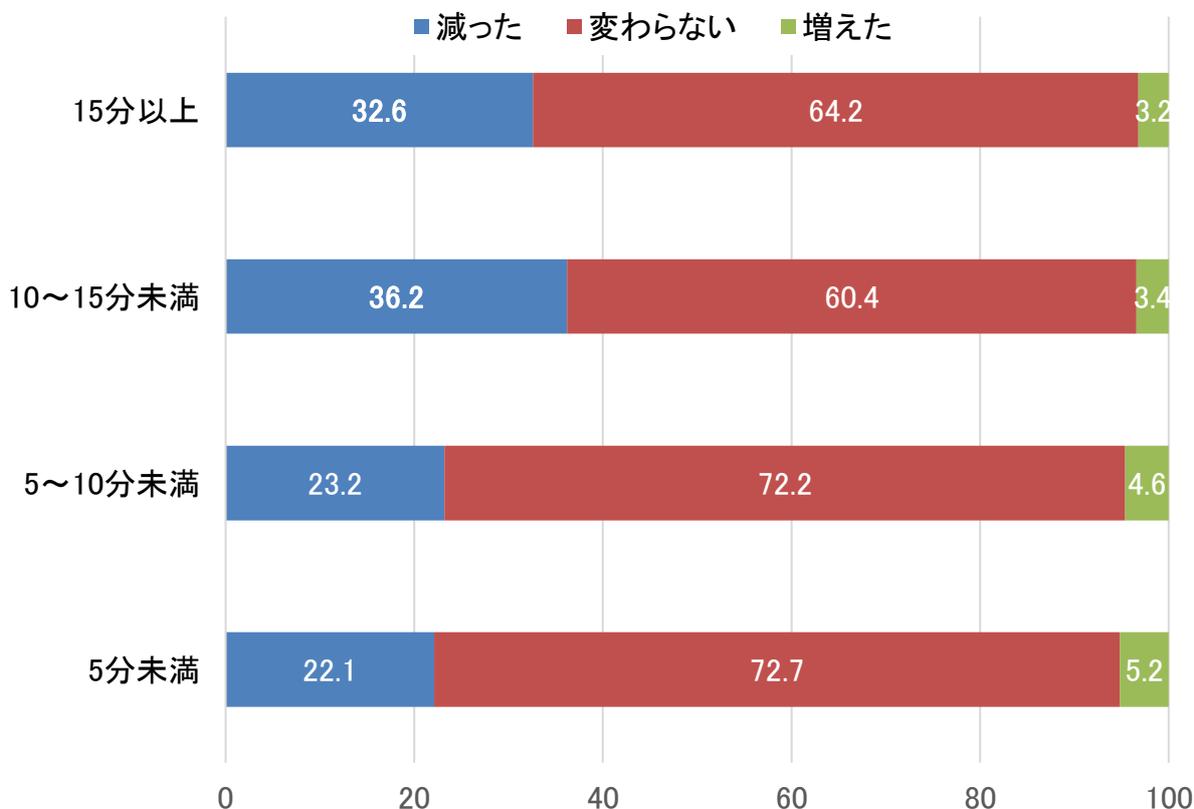
【表 4】運転免許を保有しなくなってからの外出の頻度（年代別）

単位：%

	全体	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	75-79 歳	80 歳以上
減った	25.6	7.7	21.2	18.7	27.4	41.5
変わらない	69.9	92.3	76.5	75.9	67.6	54.8
増えた	4.5	0.0	2.3	5.4	5.0	3.7
計	100	100	100	100	100	100

【図 2】運転免許を保有しなくなってからの外出の頻度  
（最寄りの駅・バス停までの徒歩の時間別）

単位：%



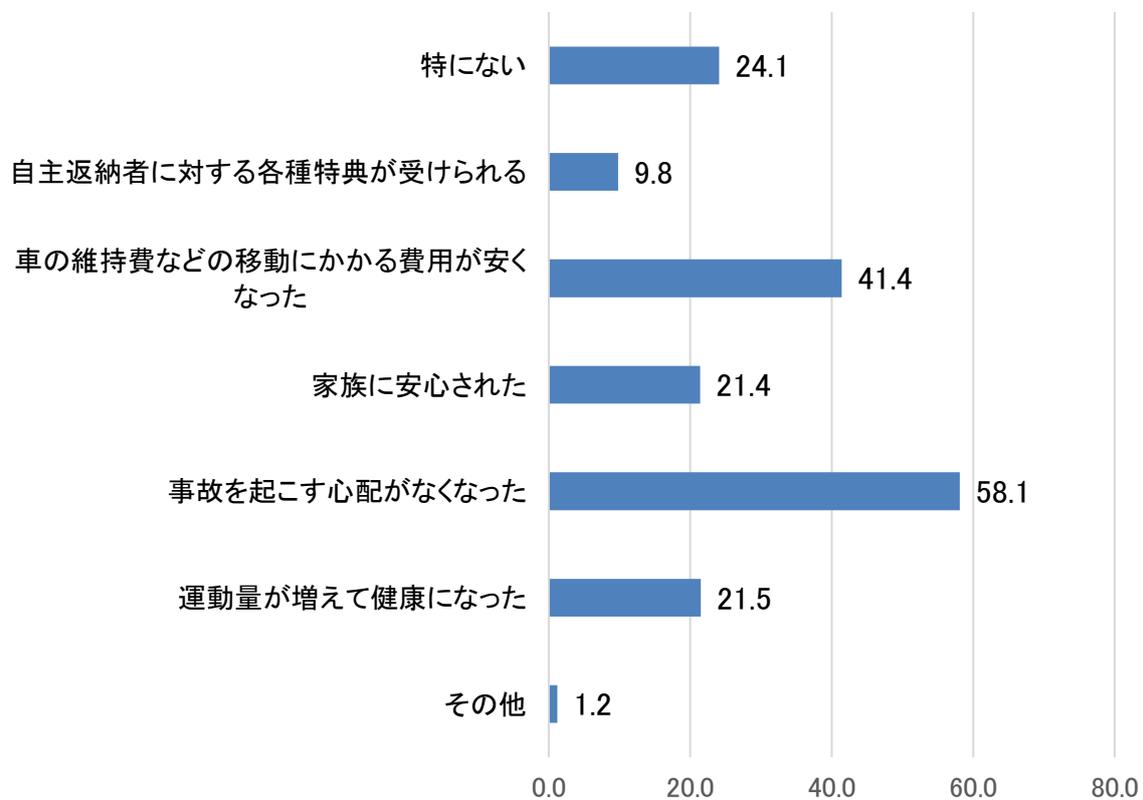
**(5) 運転免許を保有しなくなって良かったと感じたこと(複数回答)**

運転免許を保有しなくなったことによるメリットについては、主に「事故を起こす心配がなくなった」(58.1%)と「車の維持費などの移動にかかる費用が安くなった」(41.4%)ことが挙げられている。また、「運動量が増えて健康になった」の回答が21.5%であったことにも注目したい(図3)。

年代別にみると、「家族に安心された」、「車の維持費など移動にかかる費用が安くなった」とする回答は、年代が上がるにつれ増加している。一方で、「特にない」とする回答<sup>5</sup>は年代が上がるにつれ減少している(表5)。

**【図3】運転免許を保有しなくなってよかったこと**

単位：%

**【表5】運転免許を保有しなくなってよかったこと(年代別)**

単位：%

	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	75-79 歳	80 歳以上
運動量が増えて健康になった	7.7	15.9	19.2	27.8	21.8
事故を起こす心配がなくなった	30.8	47.7	51.8	68.0	65.4
家族に安心された	7.7	9.8	13.7	26.0	39.4
車の維持費など移動にかかる費用が安くなった	23.1	32.6	35.2	46.6	53.7
返納者に対する各種特典が受けられる	7.7	6.8	10.6	11.7	7.4
その他	0.0	1.5	1.3	1.4	0.5
特にない	46.2	40.2	29.3	16.0	12.8

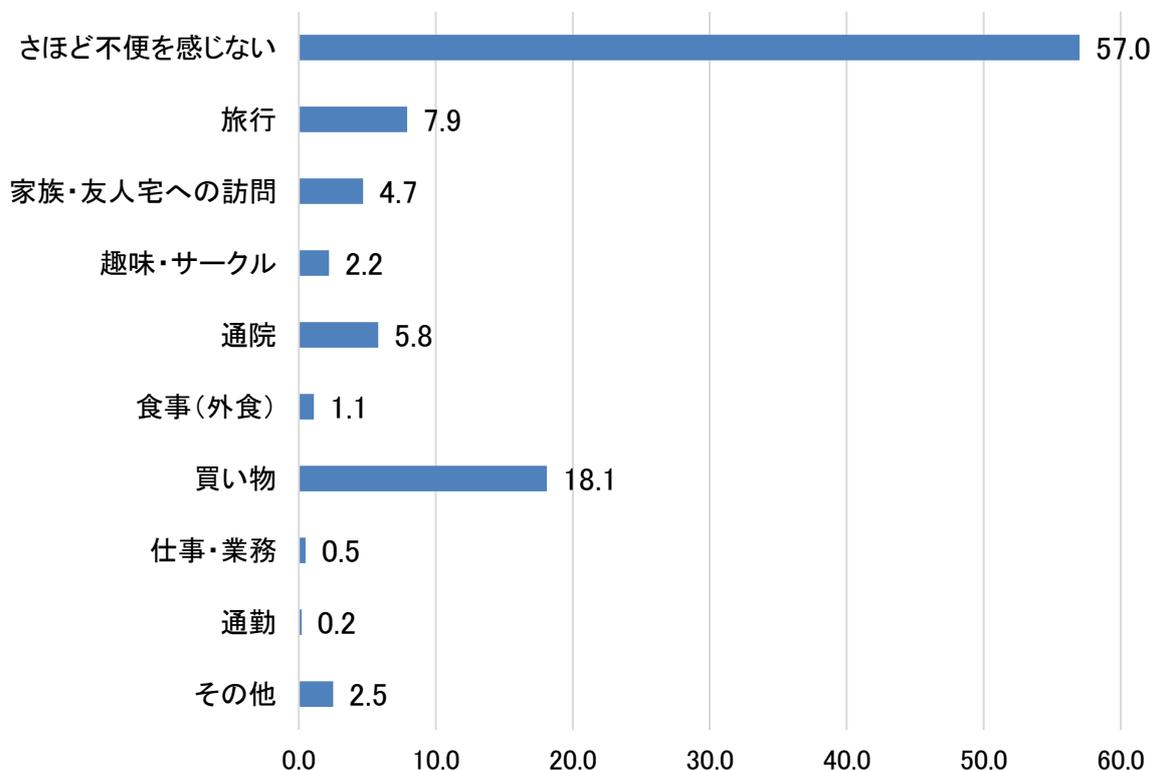
<sup>5</sup> なお、「特にない」の回答者241人の66.4%は元ペーパードライバーであった。元ペーパードライバー277人のうち57.7%の160人が「特にない」と回答している。本調査の回答者の元ペーパードライバーの割合は、60-64歳53.8%、65-69歳43.2%、70-74歳34.7%、75-79歳20.3%、80歳以上11.7%となっている。

## (6) 運転免許を保有しなくなって最も不便を感じたこと

運転免許を保有しなくなったことのデメリットとしては、「買い物」についての不便が挙げられたものの、57.0%の回答者が「さほど不便を感じない」と回答<sup>6</sup>している（図4）。

【図4】運転免許を保有しなくなって最も不便を感じたこと

単位：%



年代別でみると、「さほど不便を感じない」の回答は、年代が上がるにつれ減少する。一方で、高齢になるにつれ、回答が増加するのは「買い物」である（表6）。

【表6】運転免許を保有しなくなって不便になったこと(年代別)

単位：%

	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	75-79 歳	80 歳以上
通勤	0.0	0.0	0.3	0.0	0.5
仕事・業務	0.0	0.0	0.5	0.7	0.5
買い物	0.0	11.4	13.7	21.7	27.7
食事(外食)	0.0	0.8	0.8	2.1	0.5
通院	0.0	3.0	6.2	5.7	7.4
趣味・サークル	0.0	0.8	1.6	3.2	3.2
家族・友人宅への訪問	0.0	3.8	3.9	5.0	6.9
旅行	7.7	4.5	6.2	10.7	9.6
その他	0.0	3.0	2.8	2.5	1.6
さほど不便を感じない	92.3	72.7	64.0	48.4	42.0
計	100	100	100	100	100

<sup>6</sup> なお、「さほど不便を感じない」と回答した回答者 570 人のうち、41.4%が元ペーパードライバーであった。元ペーパードライバー 277 人のうち 85.1%の 236 人が「さほど不便を感じない」と回答している。

また、「最寄りの駅・バス停までの徒歩の時間」で見ると、時間が長くなるにつれ「さほど不便を感じない」の回答が減少する。「通院」、「旅行」が不便になったとする回答は時間が長くなるにつれ増加する（表 7）。

【表 7】運転免許を保有しなくなって不便になったこと  
（最寄りの駅・バス停までの徒歩の時間別）

単位：%

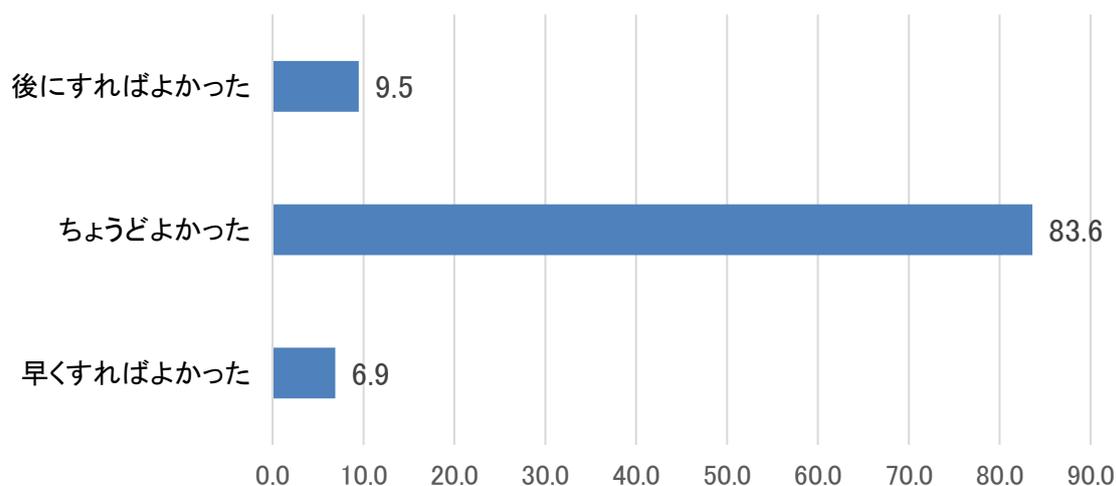
	5分未満	5～10分未満	10～15分未満	15分以上
通勤	0.3	0.0	0.0	1.1
仕事・業務	0.5	0.5	0.0	1.1
買い物	17.7	17.3	18.8	22.1
食事(外食)	1.3	1.1	0.7	1.1
通院	4.9	5.1	6.7	10.5
趣味・サークル	1.0	3.5	2.0	2.1
家族・友人宅への訪問	4.7	5.1	6.7	0.0
旅行	7.3	7.5	8.1	11.6
その他	2.6	1.9	4.0	2.1
さほど不便を感じない	59.7	58.0	53.0	48.4
計	100	100	100	100

#### (7) 運転免許を保有しなくなったタイミングはあなたにとって適切でしたか

運転免許を保有しなくなったタイミングについては、8割を超える回答者が「ちょうどよかった」としている。タイミングを「後にすればよかった」とした回答者は9.5%であった（図 5）。

【図 5】運転免許を保有しなかったタイミングの評価

単位：%



**(8) 総合的にみて、運転免許を保有しなくなったことに対してどうお考えですか**

運転免許を返納したことについては、回答者全体の 23.2%が「大変良かった」、52.1%が「よかった」と回答しており、それらの合計は 75%を超えた。一方、「よくなかった」と「大変よくなかった」の合計は 2.8%であった。結果として、回答者は、免許返納したことを概ねポジティブに捉えていることが窺える。(図 6)。

【図 6】運転免許を保有しなくなったことの評価

単位：%

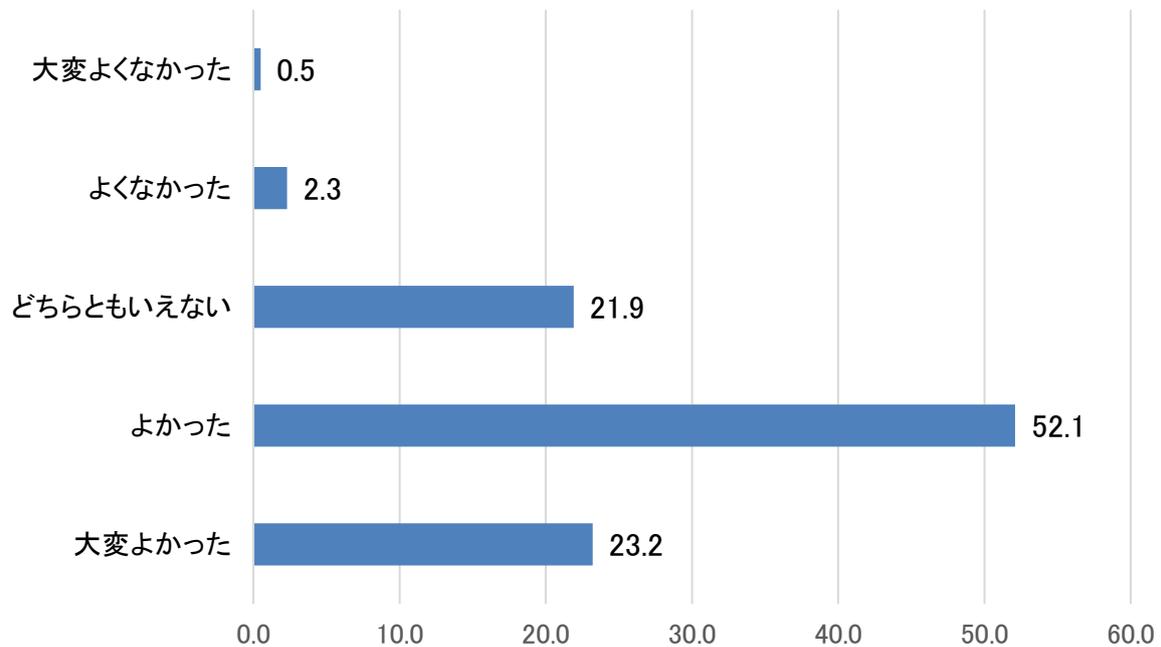
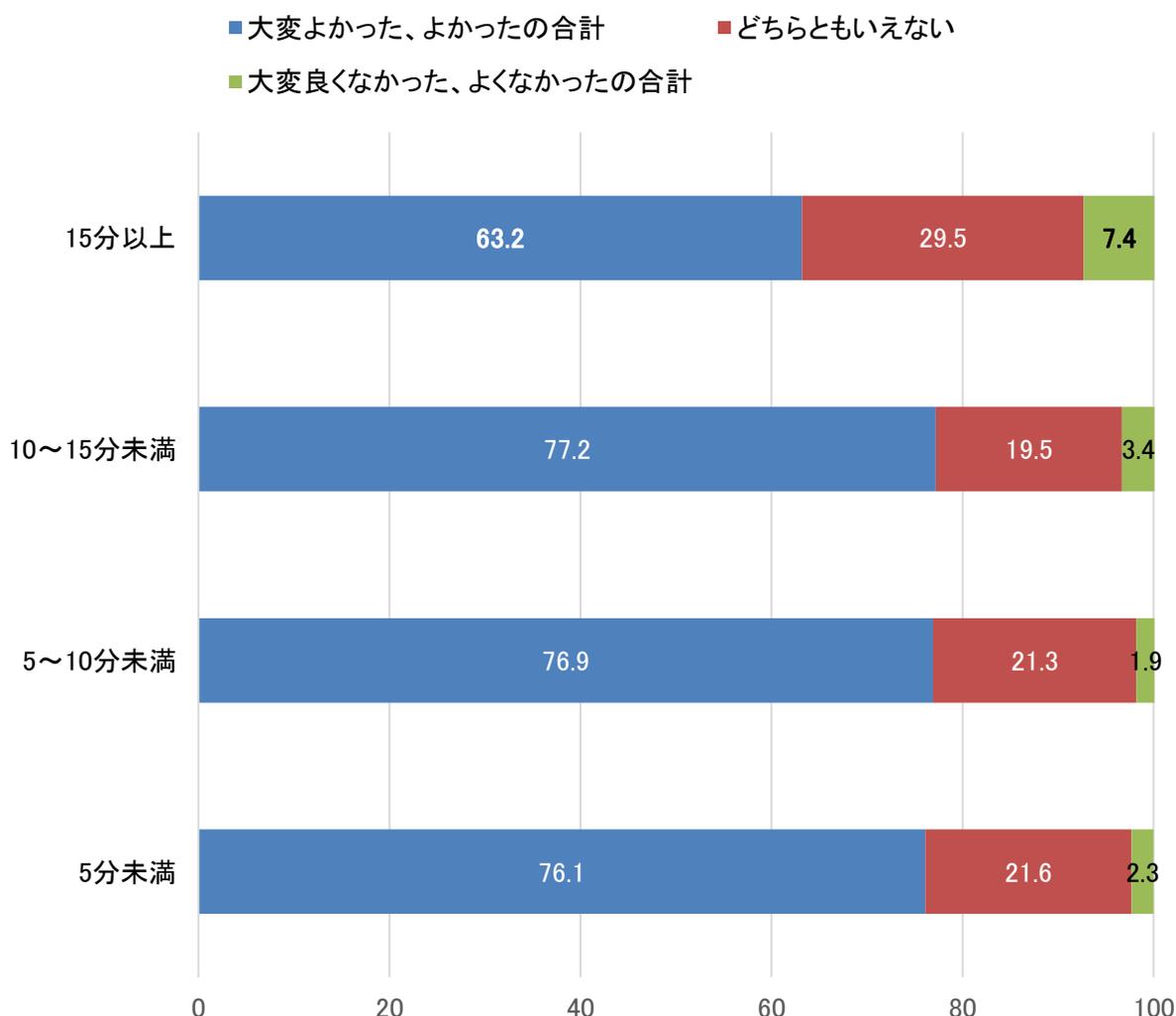


図7では、「最寄りの駅・バス停までの徒歩の時間」別に評価の違いを見た。「15分以上」の回答者の「大変良かった」および「よかった」の回答の合計は63.2%となっている。これは「5分未満」の回答者の値である76.1%と12.9ポイントもの開きがある。

また、「15分以上」の回答者の「大変良くなかった」および「よくなかった」の回答の合計は7.4%となっている。これらの結果から、公共交通機関へのアクセスの良さが、運転免許返納の満足度に影響していることが窺える<sup>7</sup>。

【図7】運転免許を保有しなくなったことの評価(最寄りの駅・バス停までの徒歩の時間別)

単位: %



<sup>7</sup> 本調査の回答者の約9割が、自宅から最寄りの駅・バス停までの徒歩での時間が15分未満であることを考えると、公共交通機関へのアクセスの良さは、そもそも運転免許を返納するしないの判断に影響を及ぼすことが考えられる。

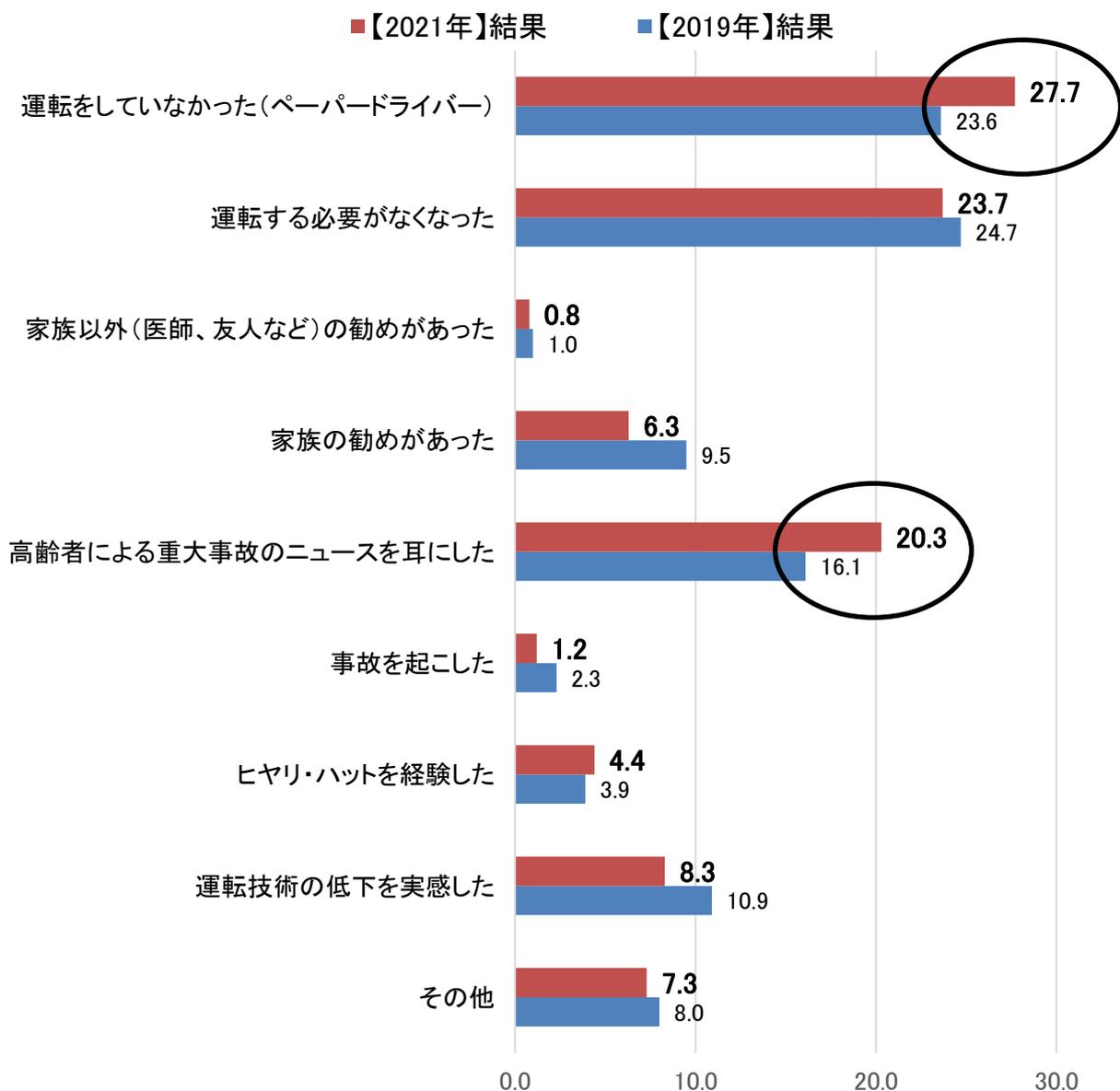
#### 4. 考察(2019年運転免許返納調査の結果との比較)

##### (1) 運転免許を保有しなくなった理由

ここでは図1で示した、回答者の「運転免許を保有しなくなった理由」の調査結果と、2019年8月実施の調査結果を比較した。図8にあるように、「運転をしていなかった(ペーパードライバー)」の回答は2021年の結果が27.7%となっており、2019年の結果に対して4.1ポイント増加している。また、「高齢者による重大事故のニュースを耳にした」の回答については2021年の結果が20.3%となっており、2019年の結果に対して4.2ポイント増加している。

【図8】運転免許を保有しなくなった理由(2021年、2019年)

単位: %



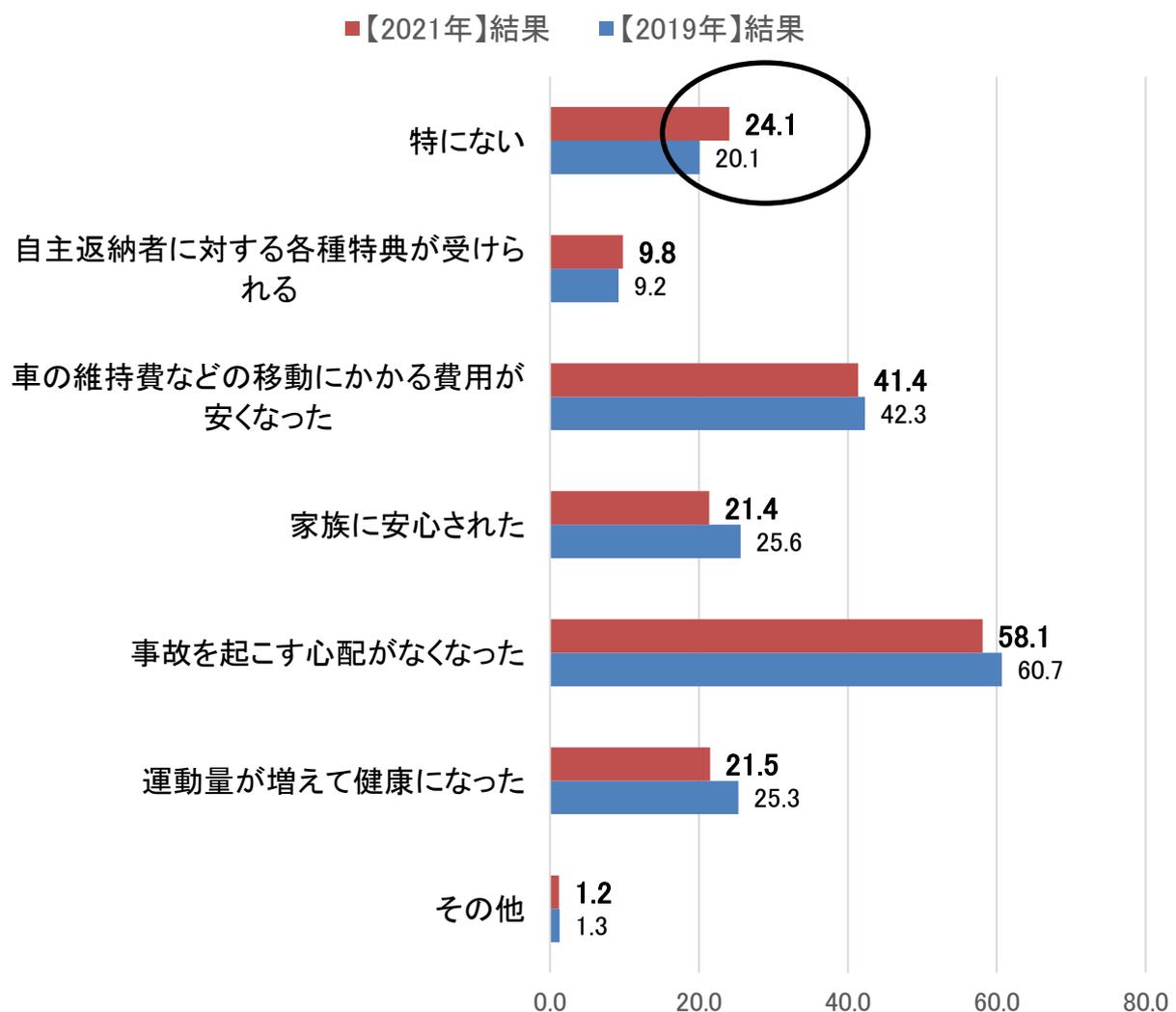
## (2) 運転免許を保有しなくなって良かったと感じたこと

運転免許を保有しなくなったメリットの調査結果（図 2）と、2019 年 8 月実施の調査結果を比較した。図 9 にあるように回答の傾向は概ね変わらなかった。ただし、メリットが「特にない」とする回答は 2019 年が 20.1%、2021 年が 24.1%と 4.0 ポイント増えている。

なお、免許返納に対するメリットは、そもそも自動車運転していなかった元ペーパードライバーにとっては少ない（メリットが「特にない」と考えられるが、図 8 に示したように、回答者に占める元ペーパードライバーの割合は、2019 年に対して 2021 年に 4.1 ポイント増えていることを考慮すべきと考える。

【図 9】運転免許を保有しなくなってよかったこと(2021 年、2019 年)

単位：%



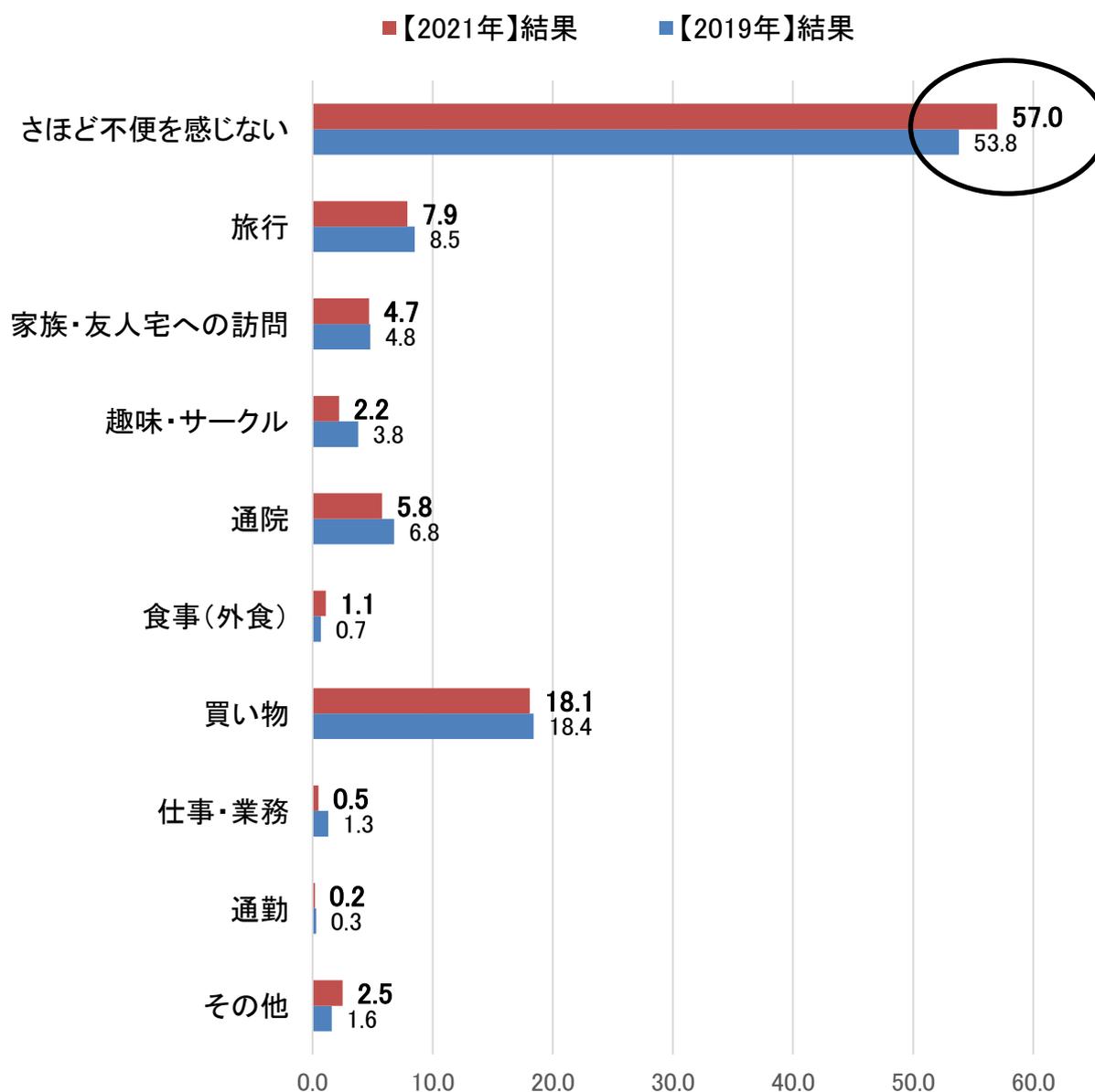
### (3) 運転免許を保有しなくなって最も不便を感じたこと

運転免許を保有しなくなったデメリットの調査結果（図3）と、2019年8月実施の調査結果を比較した。図10にあるように、回答の傾向は概ね変わらない。ただし、「さほど不便を感じない」とする回答は、2019年が53.8%、2021年が57.0%と3.2ポイント増えている。

なお、前項と同様に、免許返納に対するデメリットは、そもそも自動車を運転していなかった元ペーパードライバーにとっては少ない（「さほど不便を感じない」と考えられるが、図8に示したように、回答者に占める元ペーパードライバーの割合は、2019年に対して2021年に4.1ポイント増えていることを考慮すべきと考える。

【図10】運転免許を保有しなくなって最も不便を感じたこと(2021年、2019年)

単位：%

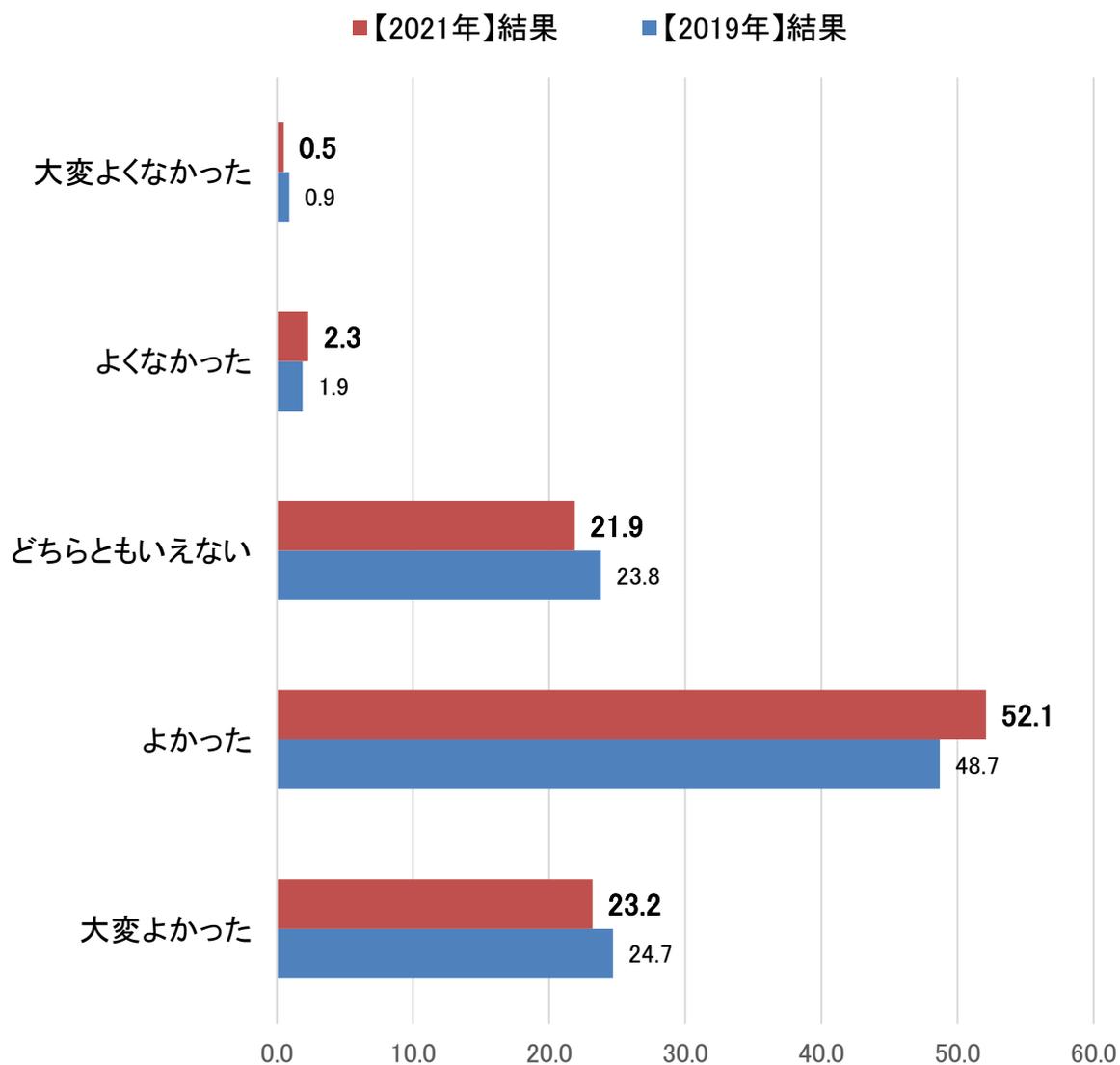


#### (4) 運転免許を保有しなくなったことの評価

「運転免許を保有しなくなったことの評価」の調査結果（図5）と、2019年8月実施の調査結果を比較した。図11にあるように、ポジティブな評価の傾向は概ね変わらない。2021年の「大変よかった」および「よかった」の回答の合計は75.3%となっており、2019年の73.4%を1.9ポイント上回っている。

【図11】運転免許を保有しなくなったことの評価（2021年、2019年）

単位：%



## 6. まとめ

本調査により、運転免許返納という決断を下した回答者の75%超が、その決断に対してポジティブな評価をしていることがわかった。運転免許返納後のメリットとして、「事故を起こす心配がなくなった」、「車の維持費などの移動にかかる費用が安くなった」、「家族に安心された」、という心理的、経済的効果以外に、「運動量が増えて健康になった」といった健康面の効果があることも明らかとなった。一方、運転免許の返納後のデメリットに関する回答は少なく、「さほど不便を感じない」という回答者が6割近くに上った。

ただし、本調査の回答者の約9割が、自宅から最寄りの駅・バス停までの徒歩での時間が15分未満であることを考えると、自宅から最寄りの駅・バス停まで徒歩で15分以上かかる運転免許保有者は、そもそも運転免許の返納を控えているとも考えられる。

運転免許を保有しなくなった理由では、「高齢者による重大事故のニュースを耳にした」という回答が、2019年の調査結果に比して、顕著に増加していた。この結果を踏まえると、高齢運転者の事故に対するメディアの報道姿勢が、今後の運転免許返納者数の傾向を左右する可能性があると考えられる。

運転免許返納を促進させるには、より簡便な返納方法を用意したうえで、まずは住まいから公共交通機関へのアクセスが良い層に対し、前述のような返納の具体的なメリットを伝え、理解してもらうことが効果的であろう。

住まいから公共交通機関へのアクセスが悪い層には、既存公共交通機関の拡充が望まれる。しかし、これは大都市圏以外では必ずしも容易でない。そこで、昨今実証実験等が進み、自治体、民間、住民が協力しあうサービス等、新しいモビリティサービスの提供を検討し、アクセスの改善を図ることも一案である。

あるいは、歩行をいとわないことが、健康寿命の延伸や認知症予防につながるという、明るい高齢期の生活をイメージできるような、健康面での積極的な情報提供も有益と考えられる。徒歩の趣味化や、徒歩の楽しさそのものを体感してもらえる取り組み機会（イベント、サークル活動、スクール等）の提供なども有効であろう。

長年にわたり維持してきた運転免許を手放す決断は、自動車が生活上必須となっている人々にとっては、特に難しいことが考えられる。運転免許返納の促進のためには、高齢者が十分に納得したうえで運転免許を返納し、その後もいきいきと生活が続けられるための支援が不可欠である。

MS&AD インターリスク総研株式会社  
基礎研究部 基礎研究グループ  
新納 康介

<参考文献>

警察庁交通局（2017）『「高齢運転者交通事故防止対策に関する提言」等を踏まえた高齢運転者による交通事故防止対策の更なる推進について（通達）』

警察庁（2018）『高齢運転者の交通事故防止対策に係る警察庁の取組等について』

警察庁交通局（2021）『令和2年中の交通死亡事故の発生状況及び道路交通法違反取締り状況等について』

警察庁交通局運転免許課（2021）『運転免許統計令和2年版』

全日本交通安全協会ホームページ <https://www.jtsa.or.jp/new/koutsuhou-kaisei.html>

MS & ADインターリスク総研株式会社は、MS & ADインシュアランス グループのリスク関連サービス事業会社として、リスクマネジメントに関するコンサルティングおよび広範な分野での調査研究を行っています。

お問い合わせ先

MS & ADインターリスク総研(株)

基礎研究部

千代田区神田淡路町2-105 TEL:03-5296-8972/FAX:03-5296-8941

<https://www.irric.co.jp/>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。  
また、本誌は、読者の方々に役立ていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright MS & ADインターリスク総研 2021